

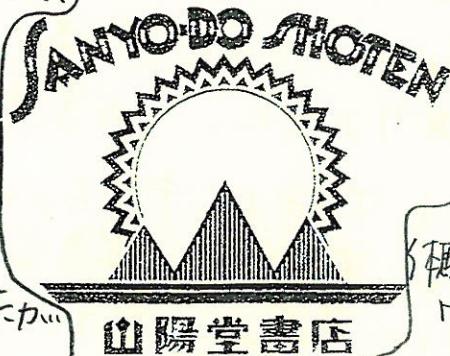
今日は  
ネイティブ  
アメリカンの  
言葉

# 山陽堂だより 22

2011年6月(水無月)

猪子鹿  
吉村昭著(1927-2006)  
おすすめの本  
三陸海岸  
大津波

「あなたが生まれたとき、  
周りの人は笑って、  
あなたは泣いて  
いたでしょう。  
だからあなたが  
死ぬときは、あなたが  
笑って、周りの人か  
泣くような人生を  
あくまでなさい。



著者が明治以後、絆り  
返し三陸で震った大津波の  
貴重な言証言・記録を発掘  
して41年前に刊行された本。  
明治以来何度も津波で  
犠牲した当時の老人のことは、  
「津波は、時世が変わても、

なくならない、必ず今後も震ってくる。  
しかし、今の人たちは色々な方法で警戒して  
いるから、死ぬ人はめったにいなさいと思う。」  
しかし41年後の今年、3月11日、津波は多くの  
人をこの世から連れ去ってしまった。

「色々な方法」で警戒していたはずなのに。  
「色々な方法」ってなんだったのかな。  
「色々な方法」を今こそ見直して学ばせてもらわなければ。  
最後に昭和8年の大津波で生き残ったリセの作文を、

「私は、私のおとうさんもたしかに死んだ=「う」と  
思いますと、なみたんがでてまいりました。  
下へおりていって死んだ人を見ましたら、  
私のお友たちでした。  
私は、その死んだ人に手をかけて  
「みきさん」  
と声をかけますと、口から、  
あわかでてきました。」

出事でほなぎになりました。  
この本をよんだら、  
今回の津波は、想定外

三陸海岸 大津波より

この地方では、死人に親しい者が声をかけようと口から泡を出す  
という言い伝えがある。(中略)幼い少女の死体をかぶせていた  
人々は「親しいものが声をかけたからだ」と、涙を流していた。

## ギャラリー山陽堂のこと

未来ちゃん出版展も明日6月25日でおしまい。  
初めての企画展を「未来ちゃん」ではじめられたと、  
これはとっても意味のあることでした。  
写真集「未来ちゃんは、この本に登場する女の子たちを  
言っているではありません。この写真集にうつる  
空も海もやかもケーキも、未来ちゃんが肩にののかう  
ている和尚さんもすべてが、写真家川島小鳥さん  
が感じたまさに『未来』なのです。

レジでお客様から言いました。  
「この写真見たらなんだか涙かでてくるんですよ。  
たいせつな育てられていた頃を思い出すからかな?...」  
2階のギャラリーからは笑い声もきこえます。  
「今まで写真集買ったことないんですけど」というお客様。  
「家族が笑った」「やさしい気持ちになりました」  
「未来ちゃんをみるとやる気がでる」  
「私も未来ちゃんのように真っ直ぐに生きる」  
「これもかわいいと思いました」「悲しくなるのがうるさい」  
「ついつい何度もページめぐれてしまう」  
「京大活の元気、ありかとう!かんぱー3☆」  
「生きるエネルギーでたくさんもらつたな」とおもふと  
こんなイラストつきで、これはかんぱーさんのこなれていました。  
ギャラリーにおけるあるノートにも

7/2~14(木)『幻のシルエット』安西水れさん個展

あの、安西水れさんが山陽堂で個展をひらいた  
ためにさるなん?: それもこの場所で開けよことを  
「光榮の極み」と。それは山陽堂が言うべき言葉です。感謝!

絶賛開催中!  
おまけ